



やんばるは伝統工芸が豊かな地域で、染め物には、琉球藍の本場で伝統的に象徴される本部町の藍染め、織物には、大宜味特産の糸芭蕉の繊維を糸にして織った芭蕉布があり、いずれもやんばるの気候風土に育まれながら磨き上げられた技法と独特の文化をもつ貴重な伝統資源となっている。文化財にも、それぞれの地域に特有の歴史や文化があり、それにちなんだ史跡や旧跡、名木がある。名護博物館をはじめ、市町村の博物館では、地域の歴史や民俗資料を展示、バイタリティーあふれる庶民の暮らしを紹介している。また、各集落で催される祭りでは、唄や踊り、祭祀芸能が演じられ、熱気にあふれた伝統芸能で大いに盛り上がる。三線（サンシン）の音色に合わせて、やんばるの文化と心に触れることもやんばるの型グリーン・ツーリズムの楽しみの一つである。

【念頭平松】

樹齢約300年の琉球松。均整のとれた枝ぶりが特徴で、その美しさは琉歌にも詠われているほど。県の天然記念物に指定されている。周辺は念頭平松公園として整備され、多くの人々が訪れている。(伊平屋村田名)



【藍染め】

琉球藍は、古くから沖縄の伝統美を代表する織物で美しい紺色を染め上げてきた。かつては琉球藍の本場として栄えた伊豆味。その藍栽培、藍染めも減少しつつあるが、製造技術を絶やさないようと藍製造と後継者育成に励んでいる。(本部町伊豆味)

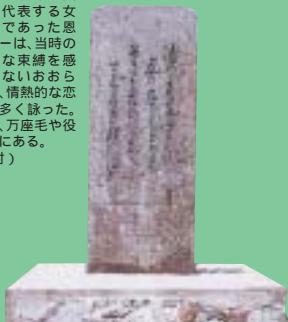


【金武鍾乳洞 古酒蔵】

鍾乳洞に落ちるしずくを子守唄に、金武酒造所では、金武観音寺境内の鍾乳洞に泡盛を貯蔵して古酒を作っている。現在3万本の泡盛が貯蔵されている。(金武町)

【恩納ナビーの歌碑】

18世紀の琉球王国時代を代表する女流歌人であった恩納ナビーは、当時の社会的な束縛を感じさせないおらかさで、情熱的な恋の歌を多く詠った。歌碑は、万座毛や役場近くにある。(恩納村)



【火の粉舞うタービー】

戦前は、各区とも豊年を招くまつりとして綱引きが行われていた。その中でも、金武区と並里区の綱引きは最大であり、綱引きの前に行われるたいまつたきあがり「タービー」は勇ましく魅力的だ。平成8年8月に行われた綱引きは17年ぶりに盛大に開催された。(金武町)

【名護のひんがんがじゅまる】



推定樹齢が約250年といわれる名護のひんがんがじゅまるは、名護市の市街地に立つ貴重な大木の一つだ。その堂々とした構えは、魔除のひんがん（沖縄独特の塚）として、名護市を見守ってきた風格を感じさせてくれる。(名護市)



先人達の歴史あり。

緑深き山々が連なる自然の中で、今なお先人達が暮らしの中で培ってきた独特の文化や歴史、伝統芸能、工芸品が受け継がれている。やんばるの歴史を巡り、学びたい自然の恵みとおおらかな人間性、やんばるの息吹を感じてほしい。



【今帰仁城跡】

今帰仁城は大小8つの郭からなる連郭式の山城で、石垣の総延長は1.5kmに及び、その規模は首里城に次ぐ広さを誇っている。広大な山地を基盤に琉球三山時代に築かれ、監守時代(1422-1665年)を含め400年程北部地域の政治、経済の拠点であった。長い石段を登りつめた本丸跡からは、今帰仁の集落と東シナ海の青い海が眺望できる。又、1月中旬-2月中旬は、桜の名所としても有名。(今帰仁村)

糸芭蕉をつむぐおばあちゃん (喜如嘉の糸芭蕉)



【芭蕉布】

芭蕉布は沖縄特産の糸芭蕉の繊維を糸にして織った布で、昔から庶民の普段着として各家で盛んに織られていた。喜如嘉の芭蕉布は糸取りから仕上げまですべて一貫した共同作業によって制作される。手詰式の染め技法は沖縄の特色をよく生かし、南国情緒をたたえた織物として全国的に高く評価されている。(大宜味村喜如嘉)

歴史に感動

【ワラビ細工】

幻のワラビ細工とも言われる今帰仁の工芸品。昔は生活の中で女性達で作って使っていたが、現在は作る人も数人になっており、貴重なものになっている。文化功労賞受賞の大城ママさん。(今帰仁村)

